

相中当時の思い出とねがい^(※1)中第 11 回卒 鎌田 安^(※2)

私は明治 41 年 4 月入学だから気が遠くなるような年月が過ぎ去った。誰かが 10 回卒以前は神代だとか話されたそうだが、ほんとうに遠い昔になった。当時の校舎の面影は何一つ残っていない。ただ南校舎の北西側の大銀杏と校地周辺の大木だけが歴史を語るようにのび続けている。

入学当時は 150 名。甲乙丙の 3 学級編成、年令もまちまちで 12 才から 20 才、その差が大きかった。遠い会津、中通り、富岡以北と各方面より相中の名声に憧れて優秀な人材が集まったように記憶している。着物に袴、下駄ばき、帽子に白線 1 本（進級毎にふえて行く）、クリクリ頭、風呂敷に教科書を包み、誇りをもって通学したものである。2 年の夏服から生まれて初めて着る洋服の喜び、今なお思い出されてならない。

3 年頃になると中途退学が増えて来た。家庭の事情からか、それとも補習の積りで入学したのかとも思われるこの半減によって、4 年より 2 学級編成となり、配属将校による軍事教練がひとしお厳しさを加えた。この年である、最も敬愛した吉成新太郎先生（明治 38 年より大正 7 年迄在勤）の作詞で校歌が出来た。私はこよなく愛唱している。歌う度また聞く毎に当時の青春がよみがえってこみ上げて来てうれしい。校歌こそ先輩後輩と連なり相和する唯一の道だ。

校歌を歌いながら勉学に余念がなかった学友達、1 冊の教科書がボロボロになって 2 冊目だとか、代数幾何などの問題は何頁の何番と全部暗記している S 君、5 年の教科書は自学によって終り高等学校の教科書を取りよせ勉強した W 君、英語の辞書を毎日暗記して食ってしまった S 君など猛烈な勉強振りに敬服していたものだ。5 年になって連日暗くなるまで受験指導して下さった当時の諸先生に心から感謝している。おかげで一高（今の東大）、二高、兵学校、士官学校、商船学校等大量に入学、学び卒えて激動の明治、大正、昭和の中に活躍され、いま故人になられた者が多い。

終りに、学校はよき伝統に生きることが大切である。今や校舎環境も整備され、その中に善良な校風が漂って、通学の生徒は魅力と誇りを以って勉学に余念がなく、いつも真実が溢れ、理想のもとに愛情に富む先生方のまなざし、また常に温かく見守って協力を惜まない地域父兄の方々、よき先輩とすなおな後輩との結び合いが築きあげられた。ここに 80 年、世は移り変っても、変ってはならぬものそれは相高のよき伝統である。これをバックボーンとして、自ら点した伝統の灯のもとに、次の百周年に向っての前進を希求して止まない。

(※1) 「相中相高八十年」1978(昭和 53)年 5 月 7 日発行、「思い出の記」より。

(※2) 大正 2 (1913) 年卒、中村出身。